

(ダイバーシティ環境整備事業報告会)東京女子医科大学におけるダイバーシティ環境整備事業

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 祥子 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10470/00033060 |

東京女子医科大学におけるダイバーシティ環境整備事業

本多 祥子

東京女子医科大学解剖学講座 神経分子形態学分野 准教授

ダイバーシティ環境整備事業推進室長

東京女子医科大学は、2016年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されました。本事業は、研究者のライフイベント及びワークライフ・バランスに配慮した研究環境の改善やそれに向けた機関内の意識改革、女性研究者の裾野の拡大、女性研究者の研究力の向上及び上位職への積極登用に有効な部局横断的な取り組みなどを行う大学等を支援するものです。本学では、女性医師を含む女性研究者の研究力向上・上位職登用を実現させるため、女性医療人キャリア形成センターが中心となり様々な取り組みを進めています。

本事業では、まず目標の三本柱として「①女性上位職の積極登用」「②研究力向上・リーダー育成」「③ダイバーシティ研究環境整備」を設定し、それぞれの担当部署が目標を達成すべく具体的な施策を実行して多くの成果をあげてきました。

「①女性上位職の積極登用」については、女性特命担当教授の任命、女性センターの設置、教員評価制度に女性リーダー育成の視点からの評価を盛り込む等の取り組みにより、本学の女性教授率が目標値である30%に到達しました。

「②研究力向上・リーダー育成」については、女性医療人リーダー育成部門（旧彌生塾）が中心となり、個別面談やセミナーなどキャリアアップのための様々な指導が行われています。またピア・ラーニング（現役教授が自身のキャリア形成過程を講演し、参加者と直接質疑応答する会）や研究支援員制度（ライフイベントにより研究ペースの維持が難しい、もしくは十分な実績のある女性医師・研究者を対象に研究支援員配置を補助）による支援も充実しています。これらの取り組みにより、女性医療人リーダー育成部門の登録生から多数が教授に任命されるなど成果が上がっています。

「③ダイバーシティ研究環境整備」としては育児支援（ファミリーサポート）、介護支援（介護相談窓口）の他、2017年度より勤務環境改善プロジェクト（学内でも特に女性医師・研究者が精力的に育成されている診療科を毎年選定し、医局員自身が中心となって勤務環境問題を解決していくユニークな取り組み）を実施しています。具体的には、各診療科内で結成されたワーキンググループを中心に複数回の座談会を開き、医局内の課題を抽出・検討し、数か月間をかけて改善を実施してきました。本日のシンポジウム後半では、2020年度に勤務環境改善プロジェクトを実施した診療科における一年間の取り組み内容や成果について、実際に活動されているワーキンググループの視点からご報告いただきます。

今回の報告では、女性医師がキャリア形成を諦めず常に活躍できる環境を作るために本学で行われている様々な取り組みを成果と共にご紹介します。この機会を、学生の皆さんが自らの将来のキャリアをイメージし、実現のためのステップや課題をより具体的に思案していくための一助としていただければ幸いです。